

1. 件名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所再処理施設の現地確認

2. 日時：令和5年1月26日(木)10時15分～16時00分

3. 場所：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所

4. 出席者

原子力規制庁

大島原子力規制部長

審査グループ 研究炉等審査部門

来住総括補佐、上野管理官補佐、菅生主任安全審査官

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

三浦理事

安全・核セキュリティ統括部 本部長代理 他3名

核燃料サイクル工学研究所 所長 他2名

5. 要旨

○原子力規制庁は、廃止措置中の国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）核燃料サイクル工学研究所再処理施設について、安全対策等の実施状況及び施設の現況を確認するため、現地確認を実施した。

○現地確認後の意見交換において、原子力規制庁から、以下の点を伝えた。

- ・ガラス固化技術開発施設において、若手職員の作業状況を見学できた。技術継承も含めて、引き続き、人材育成に取り組んで欲しい。
- ・第69回東海再処理施設安全監視チーム会合（令和5年1月24日）において説明のあったガラス固化技術開発施設の3号溶融炉を導入した場合の今後のガラス固化処理について、計画どおり処理することを実現するため、本年3月以降に実施する3号溶融炉の作動試験、運転条件確認試験の結果をしっかりと評価して準備を進める必要がある。
- ・さらに、ガラス固化処理が3号溶融炉で完了しない場合に備え、4号溶融炉の導入に当たって、溶融炉の更新判断に必要な課題等があるのであれば、洗い出しを計画的に進める必要があり、その点についても東海再処理施設安全監視チーム会合等で確認したい。

○原子力機構から、上記について了承した旨返答があった。

6. 配付資料

資料1 東海再処理施設の概要